

国立大学法人の中期目標及び中期計画の素案の修正の状況について

1. 概況

「国立大学法人の中期目標及び中期計画の素案についての意見等」（令和3年12月1日 国立大学法人評価委員会。以下「意見等」という。）を踏まえ、各法人において、第4期中期目標及び中期計画の素案の修正が行われたところ。

82法人中、63法人が何らかの修正を行い、意見等の各項目に対応する修正の件数については、下表のとおり。なお、修正がいずれの項目に該当するかは、各法人における整理による。

◆中期計画本文	法人数	修正箇所数
(1)目標を具体的に実現するための手段の明示	21	38
(2)その他 ^{※1}	25	58
合計	41 ^{※2}	96

※1 組織名称の変更の反映、注釈の追記、表現の適正化 等

※2 中期計画本文に係る何らかの修正を行った法人の実数。一つの法人が、複数の項目に該当する修正を行っている場合があるため、項目別の合計とは一致しない。

◆評価指標	法人数	修正箇所数
(1)達成水準の明示	30	160
(2)意欲的な達成水準の設定	16	42
(3)アウトカムに着目した評価指標の設定	4	10
(4)記載の簡略化	10	95
(5)その他 ^{※3}	44	179
合計	59 ^{※4}	465 ^{※5}

※3 実績値の確定を踏まえた目標値の修正、スケジュールの変更に伴う修正、表現の適正化 等

※4 評価指標に係る何らかの修正を行った法人の実数。一つの法人が複数の項目に該当する修正を行っている場合があるため、項目別の合計とは一致しない。

※5 修正箇所数の実数。一つの修正箇所が複数の項目に該当する場合があるため、項目別の合計とは一致しない。

2. 修正の主な例

各法人が行った修正のうち、主な例は以下のとおり。下線部は主な修正箇所であり、文部科学省による。なお、修正がいずれの項目に該当するかは、各法人における整理による。

◆中期計画本文

(1) 目標を具体的に実現するための手段の明示（中期計画本文）

○室蘭工業大学

学部の早期から特定の研究分野に興味を持たせ、研究活動に着手できる「学士修士一貫教育プログラム」の取組を基盤とし、大学院進学希望学生に対して、大学院でスムーズに研究活動ができるように、学部の早期から研究マインドを育成する取組を実施する。

○筑波大学

地域医療教育センターを核として、専門医育成プログラムの充実化により地域医療に貢献できる専門医を増やし、地域医療体制の構築に寄与する。

○金沢大学

地域における高度な医療を提供し続けるため、手術室の増室や外来化学療法センターの増床等により、診療機能を再編するとともに、医療従事者の計画的配置、研修医・専門医に対する関連病院と連携した教育プログラムを展開する。これに加えて、学内公募により有望な研究シーズに対し、研究費を助成することにより臨床研究を推進する。

◆評価指標

(1) 達成水準の明示（評価指標）

○埼玉大学

第4期中期目標期間中の年平均で、人文社会科学研究科においては著書数23以上、論文数（査読なしを含む）133以上、教育学部においては著書数37以上、査読付き論文数64以上、理工学研究科においては著書数48以上、査読付き論文数439以上。

○東京海洋大学

地球規模の課題に対応する革新的な研究活動の推進（水準：海洋関連分野の新技术・新産業等の創出につながる中核的な研究活動を第4期中期目標期間を通じて推進するため、地球規模の課題解決への研究テーマを3件以上選定し、戦略的研究課題として支援していること）

○北陸先端科学技術大学院大学

企業関係者等の参画による授業科目に係る単位認定件数を第4期中期目標期間最終年度までに令和2年度実績(29件)と比して20%増の35件とする。

○東海国立大学機構

海外で活躍する様々な人材やネットワークなどを活用した新たな国際交流事業として、海外協定校と連携した海外インターンシッププログラムを企画・実施する(第4期中期目標期間終了時まで4件/年度の実施)。

(2) 意欲的な達成水準の設定

「意欲的な達成水準の設定」を理由とした評価指標の修正は、今後、意欲的な評価指標について、各法人の意見を聴いた上で国立大学法人評価委員会が指定する予定であるため、主な例の記載は省略。

(3) アウトカムに着目した評価指標の設定

○山形大学

地域への開放や地域社会と共創する空間の整備 4件以上及び利用層の拡大による大学施設の学外利用件数を第4期中期目標期間末までに2割増加(第3期比) <達成時期: 令和9年度まで>

○長岡技術科学大学

サテライトキャンパス等の開発拠点における共同研究・受託研究の累計件数を対第3期中期目標期間比2倍以上とする(第4期中期目標期間最終年度までに達成)

○鳥取大学

医学部附属病院主導による新規特定臨床研究の承認件数: 年間2件以上

(4) 記載の簡略化 (評価指標)

○京都教育大学

修正前	修正後
<p>教育研究支援を目的とする基金等への寄附金や研究助成金の受け入れ状況、及びその資金によって教育研究を高度化する好循環システムの構築状況</p> <p>[測定プロセス]</p> <ul style="list-style-type: none">・教育研究支援を目的とする基金等、外部資金の獲得状況：<ol style="list-style-type: none">1. 安定的な財務基盤の確立のための学内横断的組織の検討・整備（令和4年度末までに設置）2. 自己収入行動計画（仮称）の策定（令和5年度末までに策定）3. 当該行動計画の実施状況について、外部有識者を加えた自己点検評価委員会の検証の結果、自己収入確保の成果が認められること（第4期中期目標期間最終年度）・教育研究を高度化する好循環システムの構築状況：<p>外部有識者を加えた自己点検評価委員会の検証の結果、獲得した外部資金の教育研究への活用等、教育研究を高度化する好循環システムの構築の一定の成果が、第4期中期目標期間中に認められること（第4期中期目標期間最終年度）</p>	<p>教育研究支援基金等への寄附、研究助成金の受入を統括する学内横断的組織の設置（令和4年度末までに）、自己収入行動計画（仮称）の策定（令和5年度末までに）を行い、その成果が外部有識者を加えた「自己点検評価委員会」の検証の結果、認められること（第4期中期目標期間最終年度）</p>

(5) その他 (評価指標)

○九州大学

修正前	修正後
<p>(5)-1 本学の総合的な研究戦略の策定及び戦略的な予算配分の実施に資するため令和4年度に研究戦略会議を創設すること、異分野融合型研究のプラットフォームであるエネルギー研究教育機構及びアジア・オセアニア研究教育機構の第4期中期目標期間を通じた活動状況(異分野融合研究プロジェクトの実施及び研究成果の創出、活動の対外的な発信が継続して行われていること)</p>	<p>(5)-1 本学の総合的な研究戦略を策定・統括する研究戦略会議を令和4年度に創設すること</p> <p>(5)-2 <u>研究戦略会議において、IR(Institutional Research)分析に基づく新たな研究上の強みが創出できる分野を第4期中期目標期間中に5分野以上発掘すること</u></p> <p>(5)-3 異分野融合型研究プラットフォームであるエネルギー研究教育機構及びアジア・オセアニア研究教育機構において、<u>20件/年以上の異分野融合研究プログラムを毎年度実施すること</u></p> <p>(5)-4 <u>直近5年の国際共著論文数9,000報を第4期中期目標期間中に達成すること</u></p> <p>(5)-5 <u>直近5年のTOP10%ジャーナル論文数8,000報を第4期中期目標期間中に達成すること</u></p> <p>(5)-6 教員の研究時間確保・環境整備のための「Free Quarter for Research (FQR) 制度」を令和4年度に創設し、「頭脳バンク」を令和6年度までに創設すること</p>